

## 建設産業委員会会議録

平成 26 年 7 月 11 日（金）

開会 午後 1 時 00 分

### ○榊原伸行委員長

只今から建設産業委員会を開会します。

7 月 9 日に行われた議員勉強会の感想をレポートしてまとめていきたいと思います。

暫く休憩します。

休憩 午後 1 時 01 分

再開 午後 1 時 02 分

### ○榊原伸行委員長

会議を再開します。順に感想をお願いします。

### ○小出義一委員

印象的だった部分を話します。まずいい話が聞けて期待以上でした。いろんなアイデアがあり、建物の使い方を工夫してきたと思います。ただ、どのようなチーム編成でどんな人たちが、どんなことを議論して、アイデアがでてきたかについては読み取れませんでした。過程についても知る事ができたらと思います。

また、まちづくり会社をやっというところと土地を買ったり、建物を買ったりするようなことが必要となってくる。どこがどのように主体となってやっていくのか、その点についても見極めながらやっていく必要がある。

高齢化率について、全体は 25 パーセントですが、当該地区は 30 パーセントという話があり、家族とともに住めるまちづくりをキーワードとしておっしゃっていましたが、観光地としてのまちづくりは成功しているが、住む場所としてのまちづくりとしては課題があるのかなと感じました。先生も、それについてはおっしゃっていましたので、その点の取り組みもお聞きする機会があればと思います。

### ○鈴木好美委員

小出委員の意見に加え、観点を変えますと、意見を出しあう際に、ホワイトボードを活用して、意見が目に見えるようにしたことは画期的だと思いました。また、地域の中で意見交換をするときに、口ベタな人をフォローしながら進めたことで、より現場の声をたくさん聴けたと思います。

### ○沢田清委員

率直に吉井氏のような人を半田で探せたら早いのに、と思いました。議会としての立場がどのようにあるべきか、を後で聞くべきだったと思いました。反省点です。

また、行政がやるべきことを吉井氏がやっているのか、本当に商工会があそこまでできるのか。半田商工会の人も意見も今後聞きたい。

### ○岩田玲子委員

鈴木委員の言われる通り、目に見える形で意見を出していくことは大事だと思いました。

また、空き店舗や空き地の情報を一つ一つ丁寧に洗い出していたところも印象的でした。まちづくりはやはり人であると思いましたし、家族とともに住む商店まちをどのよう

につくっていくか、また、博物館都市構想のコンセプトがしっかりしており、「コンセプトをしっかりさせて、国の補助金にすぐ乗ることが大切」という言葉が印象的でした。補助金のもらい方を研究し、活用することによって、補助金とともにまちができていくという印象がありました。

#### ○新美保博委員

いくつかの観点から話をされたと思います。吉井氏が商工会議所にいたということも重要なことだと思います。現場を知っているということに加え、行政も知っている。このような人が半田にいれば、今の様なことにはなっていなかったと思います。半田で誰がその役割を担えるかと言えば、今見渡してもいないと思います。吉井氏のような人を育てるべきです。

どのようにするかと言えば、お任せしなければいけない部分もあるし、議会の役割はあまり細かく手取り足取りするのではなく、方向性だけを作ることだと思います。後のプランニングはそちらでやってもらえばいいと思います。どういったまちづくり、例えば地域資源を活かしたまちにするのか、観光のまちにするのか、地域住民をメインにしたまちにするのか。いろんな表現があると思いますが、どうするのかということを押さえておけば、後のプランはお任せすべきだと思ったのが一番の感想です。

これからの進め方として、メモ取り、ホワイトボードの活用も含め書いていくことは重要だと思いました。しゃべって聞いているときにはもっともらしく聞こえても、書いて見ると、そうではない意見もよくある。実務的な進め方として参考にしたい。

また、半田市を考えるのに、あそこの事例、ここの事例を見に行っ、これいいね、ではちょっと遅れていないか。そろそろこういうまちにするという所で進めていかないと、でないと進まない。長浜市もスタートして25年。それに追いつくのは無理としても、ペースとしてはどうだろう。確かに全部いい所取りをしたいという気持ちもわかるが、決めていかないと進まないというのを感じました。

#### ○中川健一副委員長

特になるほどと思った点はコンセプトと戦略、具体的な手法が両方きちんとそろっていたところです。我々は、なんとなくこういうまちにしたいという思いはあっても、それを具体的にどうやって実現するのかと言う手法について選択肢を持っておらず、例えば古民家を買取るとか、処理する、補修するということを思ってもいい方法を持っていない。もう少し具体的な手法を学んでいかないといけないと思う。

例えばまちづくり会社が不動産を取得して修理するにあたり、一部自分たちでお金を用意するにしても3分の2くらいの金額は国が補助する制度がある訳です。そういうのをどのように具体的に活用していくのか。また、町内会が土地を買って、まちづくり会社が取得するという話もありましたが、実際どういうスキームでやっているのかは私も聞かないとわかりませんが、そういう手法を勉強したいです。

まちなか居住もやれたらいいと思いますが、具体的なことはわからない。ポケットパークにしても、JR半田駅前の横にあります。戦略的に展開するかと言えば、そこまではやっていないのでそういう具体的なことを勉強したいと思いました。

#### ○榊原市民経済部長

いろいろな参考となる部分がありました。まず、成功する為に何が必要かと言うと、商店街を含めた地元の本気度とそれを支える議会、行政、商工会議所のサポート。後は強いリーダーシップのとれる人材と、人と人の信頼関係。これがあればやれるのではと思いました。後はみなさんいいことばかり思われたと思いますが、敢えて、この中から課題があるとするれば、180ヘクタールという広い中心市街地の中で、人口が減っている。これはなぜかと石川議員が、観光客が200万人来たから減ったのかと聞いたら、それは違いますと、住環境の悪化と言われました。空家の老朽化。それと、ピンポイント的に空き地空き店舗の改修をしており、まちの中にそういうものが点在をして、観光の動線と住居の動線が混在しているのではないかと感じました。結果的に住環境が悪くなって住みにくくなっているのではと感じました。あと、そこに住んでいる人の為の商店だとか、そういう機能があまり見えてこなかった。対観光客相手という感じがしました。また、大胆な発想にも限界がある。土地の交換だとか区画整理そういったことも言うておられました。あと、ガラス製品に集まっていた女性を見てこれだと言っていた。女性が来なければ、それについてくる男性も来なければ子供もこない。女性が安心して住みたくなるまち、行きたくなるまちをつくらないといけないと感じました。

以上です。

#### ○小野田商工観光課長

部長とも重複しますが、まず賑わいがでて、観光のお客さんが増えても、まちの居住人口減少に歯止めがかかっていないということで、住む人を増やすということは、違う視点のアプローチが必要だと思いました。通常だと商工会議所が、住む人を増やすという配慮はなく、会員商工業者のためのアプローチをするものですが、人口を増やすということにも手を出し始めたという部分が特徴的だと思います。

人事異動がある市役所の職員ではなく、異動の無い商工会議所が長期に渡り、顔の見える関係で支援をしたことが成功の秘訣だと思いました。

もう一つ、なるほどと思ったのは住んでいる人を追い出すような事業はだめだと言っていたのが印象に残りました。

以上です。

#### ○大山商工観光課主幹

基本的にはまちづくりをしていくには地域にどんどん入っていかなければ成功はないなと思います。そういった中で長期にわたり地域の方と関っていく人間関係や信頼関係ができていく。不動産物件を売ったり、買ったりできるのはそういう信頼関係の中で成り立っていると痛感しました。

また、古いものを残すことも大事ですが、その中で新しいコンセプトをどんどん組み込んでいって新しいものと古いものを融合させていかなければ、いいまちはできないなと思いました。

#### ○大松市まち地整備課長

大きく違うなと感じた点の一つ一つやっていることが、それ単体で事業として成り立つようにやっているところ。ただ単にお金を投入して何かをやって、その結果どういう広が

りがあるか、という風ではなくて、一つ一つの事業で元がとれる、収益がでるか、ということを考えながらやっていることが今までと違うと感じました。

○柘植都市計画課長

勉強会は大変参考になりました。特に歴史建物の活用の仕組みや手法については、参考になりました。ただ、それができたのも吉井氏のように中心となってやれる人がいて、そういう人が周りを引き込んで人間関係がいい方向に行く中で、事業が進んでいくことが強く印象に残っています。

○榊原伸行委員長

今、みなさんに感想を述べていただきましたが、議員勉強会が終わった後に、吉井氏と正副委員長、岩田玲子議員の4人で食事をしたときのことを副委員長からお願いします。

○中川健一副委員長

細かい話をいくつか伺いました。

勉強会の講師について、経済産業省、中小企業庁の補助金で3回くらいは補助金で呼べる、4回目以降は1日最大17,500円かかりますが1年間は何回でも呼べるという補助金の制度だとか、商店街に対し、年間400万円、ほぼ100パーセント補助で賑わいづくりの事業について比較的自由に使える補助金だとか、まちづくり会社、商店街組合に対して年間最大2億円、3分の2補助が受けられる制度など、これは中心市まち地活性化計画の認定が前提条件です。そのようなものを活用して、長浜もまちづくり会社が補助金をもらいながら、不動産を買ったりしているというお話を伺いました。

我々も流用のことなど苦しんでいます、そういうこと以外でももう少し1年単位で頑張れば、市のお金を使わずにいろんなことができるということをいくつか教えていただきました。

○岩田玲子委員

中川副委員長と重複しますが、今度講師の先生を呼ぶにあたり、5万円まで補助してもらえるシステムなどを活用するべきじゃないかなと思いましたが、そういう手法なども全部知っていらっしゃる方ですので、アドバイスをいただきながらやっていければと思いました。今、できることは、中川副委員長の言われた、講師派遣等を利用し専門家にお話を聞きながら、まちづくりをしていくことかなと思いましたが。私の感想では先生にこのまちを知っていただいて、そのアドバイザーを先生にさせていただくことが最もいいのではないかなと思いましたが。

○新美保博委員

無料で講師に来ていただくことは、来月やろうと思えばやれることか。

○中川健一副委員長

手続きを経済産業省に聞いて確認しました。手続きをしてから承認を得るまで3、4か月かかるとのことでした。これは商店街組合が言えばできる仕組みです。ただ、吉井氏は講師の名簿には入っていませんので、来年4月以降に頼む場合だと今から名簿に入れてもらって来年申請することになります。

○新美保博委員

来年の話をしているのか。今年の話をしている。来年補助金が使える話はどうでもいい。26年度に補助金が降りる話は100パーセントない。やるなら去年手続きしておかなければならない。それは提案としては残るかもしれない。財政に行けば補助金の本がある。どういった事業でこういう補助金がある、というものがある。今、この委員会でやらなければならないことはそういうことではなくて、方向をつけてやるのが大事ではないのか。例えば商工会議所にやれと、補助金を探して来いと。ただ言われなければやらない。なぜなら問題意識がないから。この2年がかりの委員会はそれをやらなければならない。そんな悠長なことが言ってられるのか。去年1年やって答えも出ずに、また今年も来年補助金を申請したらどうですか、と。そんな提案ができる話ではないと思う。どういった方向性をここでつけるかで、その後の中身は、どんな補助金を利用するのか、どういうものを作るのかは、プランの問題。プランは任せて手だてはその後の話だと思う。

それからこれは勉強会の感想を委員会が出さなければいけないのか。

○中川健一副委員長

今日、皆さんの意見を聞いたのは、議会の勉強会で話を聞いたので、皆さんがどういうあたりで納得がいて、方向性が見いだせたのか、意見は集約しておいたほうが、次に進むにあたり、委員会として進めやすいという趣旨です。

○新美保博委員

勉強会の答えをだせと言われたわけではないですか。

○中川健一副委員長

そうではありません。事前に宿題としてレポートともらう方法もありましたが、議長の勉強会ですので、簡単にまとめる形をとりました。

短期的、中期的、長期的にやることのあるのですが、たまたま吉井氏からは無料でもできることをいくつか教えていただきましたので、それも頭に入れてやったほうがいいと思いました。

○新美保博委員

議長の話だともう一度吉井氏が来るという話があったと思うが、まずそれを確認。吉井氏でやるのか、違う人でやるのか。

○中川健一副委員長

みんなで話し合いをして、もう一度吉井氏を呼んだ方が良ければ、それもありますし、僕としては次回の講師の腹案は持っていますが、みなさんの案があれば。

○榊原伸行委員長

暫く休憩します

休憩 午後1時30分

再開 午後1時44分

○榊原伸行委員長

委員会を再開します。議員勉強会については8月12日、ないし、20日で中川副委員長が講師に対してはお願いしています。決まり次第議長に報告して参りますのでよろしく願いいたします。

今、感想をみなさんからいただきましたが、これをまとめていきたいと思っておりますので、正副委員長にご一任をお願いすることと、先ほど休憩中に新美保博委員から全員からの感想という意見がありましたが、これにつきましては議長に申し入れをしたいと思っております。そういうことで了解していただけますか。

【「お願いします」との声あり】

○榊原伸行委員長

次に行きます。今日はたくさん資料があります。あいちの商店街は沢田清委員より提供していただきました。参考に読んでください。先日吉井氏から頂きました第2次長浜地区中心市まち地活性化基本計画の概要版と長浜市住民まちづくり事業概要を提供していただきました。倉敷市、福山市の資料があります。

副委員長が竹内さんと連絡がとれていますので、報告をお願いします。

○中川健一副委員長

吉井氏にファシリテーターをお願いするかどうかの件ですが、竹内さんに電話で確認し、先日の講演会の感想を聞きました。すごく良かったと、その後メンバーと話をして、長浜にみんなで現地を見に行き行って話を聞きに行くという話になっているそうです。もしもファシリテーターとして3回ほど半田に来ていただいて実行委員会でアドバイスや話をさせていただくということも十分であるとのことでした。後はこちらでもいいよということであればもう一度具体的な話を竹内さんにして、むこうから頼みたいと依頼があれば、またここで諮り予算の流用をしていくことになると思います。以上です。

○榊原伸行委員長

今の副委員長の報告にご意見ありますか。

○新美保博委員

いまいちすつと落ちない。吉井氏有りきではないと思う。有りきの話に聞こえますが、竹内さん達が見に行っているなど、それは1つではあって全部ではない。ここが何をやるかを決めればいい。今年はこの建設産業委員会をやって、こういう方向をつけるぞと。その中でお願いできるのはたまたま吉井氏だったということ。日程的なスケジュールを、先に動くのはどっちなのか。

○中川健一副委員長

今日のこの日までの流れをおさらいすると、当初スタジオエルに頼もうと折衝したところ、ちょっと手続き的に無理がありましたので、一旦断念して、竹内さんにも伝えました。その後、吉井氏と言う長浜まちづくり会社の方が挙がり、かなりコストも安いということで、これであれば我々視察も行けるし、余ったお金で流用もできるという想定の中でこの前、吉井氏に来ていただき勉強会をしました。その結果、かなり勉強になったという方も多いと思えますし、竹内さん達も長浜まで見に行かれるということでしたので、もしも吉井氏にアドバイザーとして半田に来ていただくということは選択肢としてあると思います。後は、竹内さん達に予算がこれくらい残っていて、吉井氏であればお金は出せるけれども、いかがでしょうか、ということはこの後打診することをしなければならぬと思います。もういらぬということになるかもしれないし、他にいいなという人がいたら、そちらでやっていくという

こともあると思います。ただ、他の選択肢が提示された場合はその人がいいのか、悪いのかというのを我々も調べないといけないと思います。

○岩田玲子委員

それで何をやるために吉井氏を呼ぶのかという委員会のコンセプトがはっきりしないと呼んでも意味がない、ということだと思います。流れとして、何をするために吉井氏を呼ぶのか。

○新美保博委員

そこを決めなければならない。近い段階で決めなければならない。アドバイザーにするのか、ファシリテーターにするのか。そういう人がいるのだ、その人がいないとやれない、だからこの人に頼むのだということを決めなければならない。決めたことによってそれは誰かとなり、然らば吉井氏だ、という接続が必要です。

行政も無理、議会も無理、商工会議所も無理、ということだったら、うまくコーディネートしてくれる人がいるのなら、その人にお願ひしましょう、ということの大前提で決めなければならない。それについては予算がかかってもやるぞということをお腹くくらなければならない。

その次にそれは誰なのかと言う話になり、スタジオLなのか、吉井氏なのか、とならぬ吉井氏なら、お願ひすればいい。たまたま竹内さんたちは一緒に話を聞いたし、長浜に行ってもらうのは構わない。それはこっちが決めればいい。

○中川健一副委員長

私の説明が足りませんでした。今の作業部会での問題というのは、みなさんこういう方向でまちを持って行きたいというコンセプトはきちんと持っていますが、具体的にそれをどのように実現していくかという手法がわかっていない状況です。竹内さんもおっしゃっていましたが、具体的なアイデアがたくさんあった、という感想でした。具体的なアイデアをきちんと教えていただける方が必要だと思います。

先ほど保博委員や沢田委員からも挙がりましたが、商工会議所が1人、人をだすなり、商店街から人を出すなり、吉井氏のような人を作っていくことをやっけていかないと、長期的にやっけていくことですので、それは吉井氏のような人がきて、一緒に育ててもらいたいと思います。それが大きな目的の2つです。そういうことができる人で、今のところ吉井氏が適任者であると思います。他にも探せばお見えになると思いますが、そこは向こうから要望を聞いたり、我々も選択肢を探るのであれば、探して提案をしていくことになるかと思っています。

○新美保博委員

アドバイザーに頼らざるを得ないというのが1点。もう1点はせつかくお願ひするのであれば、長期で面倒見ることができる人材を作らなければならない。それは商工会議所になるか、わからないが、例えば市なり、建設産業委員会が商工会議所などに、例えば3年、例えば吉井氏についてもらい、一緒に勉強してくれ、ということをお願ひしに行かなければいけないということでしょうか。

○中川健一副委員長

竹内さん達とも話をして、竹内さんからもそういう意見はいただいています。そこで、お

互い共有できれば一緒に会議所に頼みにいくなり、誰をアドバイザーに選ぶかを考えて、竹内さん達が、吉井氏がいいと言えば、頼みにいきますし、スタジオエルがいいということなら、我々が予算等のことも考える。あるいは大学の先生等他の選択肢があれば、そちらも考えることになるのかなと思います。

○岩田玲子委員

この間聞いたところによると、まち元気プロジェクトと言う募集があり、まちづくり会社を中心にいろんな人が長浜に3泊4日無料で学びに行けるプランがあるので、それに半田市のやる気のある方が行ってほしいなのもあって、今の発想があるのですよね。

○沢田清委員

当局に聞きますが、このまちづくりにおいて、アドバイザーやファシリテーターなりが必ずいないとまちづくりはできないと思いますか。

○榊原康仁市民経済部長

必要だと思います。吉井氏は人格的にもかなり優れていると感じました。20年もまちづくりに携わって、いろんな経験を積んでみえますので、ものすごく苦勞もしているようですので、吉井氏に、「こうしたい」と相談すれば、「こういう課題があるのでは」と返事がもらえるとと思います。その辺りももっと聞きたかったです。それを半田市に活かしたい。

皆さんは話を聞いて、本当にいいなと思ったとおもいますが、私は穿った見方をあえてしました。常に新しいサービスをどんどん提供している。だから、人を呼んでいる。逆に言うと、例えばガラスを売っている横にもっとすごいガラスのものが出来たときに、飽きられたときに、どうなるだろうという不安感もありました。だから、客観的に確固たる普遍的な観光資源が半田市には必要だと思いました。

○沢田清委員

この間の話の中には個人でお金を出し合って、やってくれた方がいましたよね。そうなるのと、JR半田駅前のにぎわいをつくる為にそういう人がでてくるのか、でてこなかったら話は無くなってしまうのか、という考えもありました。それを育てる為に必要なのかという話もあるかもしれません。

○新美保博委員

吉井氏のような立場の人は要ると思う。もし、ああいう人が半田市にいたら、愛知県の商店街に半田が載っている。載っていないというのは、そういう人がいなかったということだと思う。なぜここに載らなかったのか考えると、穿った見方をする人が多すぎる。これをやって失敗したらどうしようと考えていたら、2番手、3番手それ以下になってしまう。これは愛知県の人柄かもしれないが、先頭をきらず、2番煎じ、3番煎じでうまくいったものを取りいれたい。だまされてもしょうがない、という割り切りができていない土地柄かもしれない。しょうがないかもしれないけど、リーダーとしてやる人が要ればここに載っていたと思う。載っていないということはリーダーがいなかった。ということならば、今からでも遅くはないし、この事例を真似する必要もない。例として半田市バージョンをつくれればよい。今建設産業委員会でも話しているように、おそらくリーダーがいなかったから、軸に据える人は必要と。また、お金を出させてくださいと言わせるのは吉井氏が20年間やってきた強



みがあると思う。この間の勉強会の話でも、自慢話でもなく、本当に実際にあった生の話が聞けたと思っている。穿った見方をせず、乗ってもいいと思う。また、商工会議所に頼むなら、若く、企業から収めてもらう会費で運営していることを自覚できる人をお願いした方がいい。出向する気持ちで人材を出してもらえるようお願いするのはこちらだと思う。これは方向性ではなく、やり方なので、方向性は閉会中のテーマでも考える。僕たちのアイデアが少なく、吉井氏がいくつも持っているなら、それを聞いておくことは必要。

○岩田玲子委員

もう一つ思ったことは、吉井氏が来られた時に、JR 半田駅を降りてまち並みを見られたそうです。そこで感じたことは、自分の原点を思い出すような、人っ子一人歩いていないこの地域から何ができるか。だそうです。今の半田のまちは 40 年前の吉井氏の気持ちを思い出させるようなまちであったということです。

○沢田清委員

今度倉敷の先生を議員勉強会で呼んで、倉敷の先生がすごくいい話で半田にぴったりとなった時、どうなるかが気になります。

○新美保博委員

資料を読む限りそうはならないと思う。建築士なので、まちづくりの中で、専門的なところを扱っているのではないかと思う。

○沢田清委員

いいところは盗んでということだと思います。ちょっと気になったのはずっと吉井氏を呼んで、ずっと一緒にお付き合いをしながらまちをつくっていかねばいけないのか、講師に呼んで、いいノウハウを盗んで後は半田でやればいいのかと思います。ずっと二人三脚でついて行ってもらわなければいけないのが気になります。

○中川健一委員

おそらく、今の作業部会もおんぶにだっこと言うことはなく、手法を知りたいのだと思います。これをやるべきだと押し付けられてしまうのは嫌だと思いますので、その心配はあまりしていません。

先ほどの建築士の話は、吉井氏はグランドデザイン、建築士の方は建築物が中心になりますので、パーツの話になると考えています。

○新美保博委員

欲しいのはスピード感だと思います。せっかくこういう風に盛り上がったので、スピード感をもってやりたい。まずは 1 つ。1 つ作り上げれば後はそれに類似してやっていくと思う。今はその 1 つが作り上げられていないので、それをやろうとすると誰かがゴールを作ってやらないと、手法としては強引でお金がかかるかもしれないけど、今年度中に何か 1 つ事業を立ち上げたい。

○岩田玲子委員

進め方について、まち並みは、こういう雰囲気のマチにしたいということを建築士会にお願いして、デザインマニュアルをつくると良いということをおっしゃっていました。これも一つのやり方だと思いました。

○中川健一副委員長

補足します。本当はすぐ強制力のある景観条例をつくる方が、一番いいと思いますが、最初からすぐそれはできないので、まずは協定という形を市民主体で作るのがいいだろうということでした。

その際は、自分たちでは作れないので、建築士会などに頼んで作ってもらうのがいいのではないかと、というのが吉井氏のご意見でした。

○榊原伸行委員長

暫く休憩します。

休憩 午後 2 時 14 分

再開 午後 2 時 17 分

○榊原伸行委員長

委員会を再開します。皆さん方からいただいた、ご意見、感想は本日終了後副委員長と竹内さんのところへ伺い、打ち合わせをきちんとさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

暫く休憩します。

休憩 午後 2 時 18 分

再開 午後 2 時 30 分

○榊原伸行委員長

委員会を再開します。今後の委員会について、視察をどうするかを協議していただきたいと思いますが、その前に副委員長から提案します。

○中川健一副委員長

先ほどのコンサルティングの講師をお願いすることが 3 回分と考えて、1 回 4 万円から 5 万円とすると 15 万円。そうすると視察にも行けそうなので、順序は逆ですが、その範囲で視察を検討してみました。現状の案は 1 日目に資料の歴史まちづくり手引きの 62 ページの内子町。内子座、これはもともと大正時代につくられた古い歌舞伎座をまちのシンボルとして復元したものです。内子町自体、歴史的なまち並みを作っており、当初は行政主導でまち並み整備をしていたが、途中から住民主導に切り替えていったということだそうです。この内子座は JR 半田駅前の末廣亭をどうやってよくしていけたらいいかということのを頭に置きながら、勉強できたらいいと思います。

もう一つが倉敷。お手元に配布しています倉敷建築工房の書類ですが、JR 半田駅前のまち並みを良くしていくにあたり、ランドデザインは長浜の考え方を取り入れていけばいいと思いますが、個々の建物をどうやって修理修景していくかをある程度勉強していかないと、結局建築物の連続体がまち並みになりますので、建築物をどうやって古いまち並みに合うように作り直すのかという観点で倉敷の榊村先生の話をもとに勉強になると思います、提案します。

次に福山市です。写真のついた資料です。スタジオエルが取り組んでいる中心市まち地の商店街の活性化の事例です。倉敷から 30 分くらいで行けます。中心市まち地が半田市と同じ状況です。郊外化が進んで、商店が中心市まち地からどんどんなくなっていく中、どうや

って中心市まち地の活力を取り戻すのかと言うことを2012年からスタジオエルと一緒に  
ってワークショップをやりながら取り組んでいる事例です。ここはソフトが中心ですが、ど  
うやって自分たちが主体的に商店街、市民が活動をやっているのかをみることができたら、  
JR 半田駅前の今後の参考になるかと思い、提案をします。

最後に長浜ですか、ここは今回の視察で行くか、実行委員会の人たちが行くときに我々も  
一緒に行くか、我々で行くか、選択肢はあると思いますが、別途考えていきたいと思  
います。

○榊原伸行委員長

視察先について副委員長より提案していただきました。まず、視察に行くべきかどうかも  
あるかと思いますが、これについて質問などありましたらお願いします。

○新美保博委員

お金がある、ないという話ではなく、以前から言っているように視察をしなくてはいけ  
ないという明確な理由がないと、ただ視察先に行って、これは良かった、あれは良かったとい  
う話ならやめておいた方がいい。半田というまちがどういうまちなのか。どういうまちを作  
りたいのかということをしっかり決める中で、こういうまち並みをつくりました。こうい  
う点で苦労しました。こういうことをがんばったら成果がありました。という事例があるところ  
を探したほうがいいと思いますので、場所を今限定するのはどうかな、というのが1つ。

また、場所よりもなぜそこへ行くのかというのがしっかりしないのなら、視察に行くべき  
ではないと思いますので、その議論を先にしたいと思  
います。それで、必要があれば行けば  
いい。

○中川健一副委員長

私が説明不足のところがありましたので、もう少し詳しく説明します。内子町で学びたい  
と思っているのが、内子座と言うまちのシンボリックな建物をほぼ国の補助金、一部民間の  
基金でやっているようなのですが、どうやってこれを補修するかによって、まちのシンボル  
として、まち並みをつくったり、賑わいをつくったりすることに役立ったかを知ること  
は、JR 半田駅前の末廣亭、わたしはそこが一番のキーポイントになるかと思っています。  
あれをどうしていくかによって、JR 半田駅前のまち並み整備をしていくことに一番の影響  
がありますので、それを考える題材として内子座はとても参考になると思  
います。

もともと内子町は行政主導のまち並み整備であったものが、途中から自治区中心に変えて、  
都市計画も途中から公民館学区ごとに都市計画をするようになったということらしいので  
す。そこまで地域主体、住民自治を働かせながら、まちづくりをやっているところは、今半  
田市が取り組まなくてはならない、地域力向上委員会になりますけれども、そういうところ  
は参考になるし、そういう方向でやっていかなければいけないし、JR 半田駅前のまちづく  
りも、本来地域住民が主体になってやらなければいけないので、それを具体的にどのように  
やっていくのかというのはすごく参考になると思  
います。

○岩田玲子委員

そうなるこれは誰に話を聞くことになるのでしょうか。住民なのか、地域の活性化に貢  
献している人なのか、自治体なのか。

○中川健一副委員長

行政から通り一遍の話を聞いて、まち並みの古民家を旅館にしたような住宅等は純民間がやっているそうなので、その話を伺ったりすることもできると思いますので、両方から聞ければいいなと思います。人口が16,000人くらいの小さな町で、伝統的建築物群保存地区となっていますので、半田とは歴史的な建物としての違いがあります。

○新美保博委員

これをいいますと、きりが無くなると思う。最初言ったように、例えば末廣亭をどうするか、今までやってないことをやるのだったら、末廣亭である必要はない。観光もあるが観光の要素が全てではない。だったら見に行っても意味がない。昔の伝統的な建物と新しい建物がどういう風に共存共栄をしていて、住んでいる人と観光客がうまくやっているまちはどこにあるんだろうなど。そこをやらないと、半田は観光で生きるわけではないし、地元の住民だけでもないということならばうまくマッチして生活していくにはどうしたらいいのかを調べたら間違いなく、ここではないと思う。

福山も、若い子たちが集まってやっているのは面白いと思うが、表に出ていなかったり、成果が上がっていなかったりするだけで、どこでもやっていることだと思う。あえて見に行く必要はないと思う。

倉敷はもともとまちそのものに伝統がある場所なので、新しい建物がどんどんできている訳ではないと思う。歴史感が違うのではないかな。

半田に合うまち。半田が作りたいまちと言うのはどういうまちか。それに合う視察先があるとすればそこを見に行った方がいいと思う。

長浜はいいが、20年出遅れている。そこを今見に行っても、いいなで終わってしまう。今できつつある、1ブロックチャレンジした、というところが見られるといいなと思う。それが北海道で見られるなら北海道でも行きたいと思う。そういう所を探してほしい。

○榊原伸行委員

暫く休憩します。

休憩 午後2時45分

再開 午後3時13分

○榊原伸行委員長

委員会を再開します。

視察は長浜、倉敷、福山を予定し、候補日は7月28日、29日と8月5日、6日それぞれ1泊2日ということでお願いします。

【「はい」との声あり】

○榊原伸行委員長

それでは資料について説明をお願いします。

○大松市まち地整備課長

【資料に基づき説明】

○榊原伸行委員長

本日は長時間にわたりありがとうございます。

なお、決算資料について昨年請求依頼したものを渡してありますが、追加で資料請求を希

望される方は7月25日までに事務局まで申し出してください。  
これで本日の委員会を終了します。

閉会 午後3時15分